

リサイクル通信

2004.11

廃棄物・リサイクルガバナンス

経済産業省産業構造審議会・環境部会が、9月17日に開いた廃棄物・リサイクル小委員会でもとめた廃棄物に関するガイドライン（案）では、平成一〇年に策定された「産廃排出事業者適正処理ガイドライン」に「**廃棄物・リサイクルガバナンス**」という新しい概念が加味されて全面改定が行われました。

これは、廃棄物・リサイクル処理を廻って生じるあらゆる事が、企業経営リスクに深く関わってくることから、従来の廃棄物マネジメントの枠組みを超えて、正に**企業統治といった視点から廃棄物の取り扱いを再構築する必要があるからでしょう。**

企業活動により発生する産業廃棄物の不適正処理（極端な場合は不法投棄等）は、廃棄物排出者等



国際環境規格 ISO14001
長沼商事株式会社

埼玉県所沢市林 1-306-7

への法的制裁強化というかたちで進められてきましたが、企業経営の活動面よりみた、より本質的な問題は、これら違反が社会的制裁を伴うということでしょう。そしてこのことの方が、企業経営においては重要な意味をもつということです。

今日の消費者の購買行動（判断）は、今までのように価格の安さや商品・サービスの良し悪しだけではなく、その上位の価値判断に、企業の社会的責任（CSR）をおくようになりました（既に投資レベルではSRI 社会的責任投資 という言葉が市民権を得ています）。このよう

な消費者意識の高まりの中にあつては、**廃棄物処理法違反に対する法的制裁は、社会的制裁へと拡大する危険を内包していると言えます。**万が一、このリスクが顕在化した場合は、それまで築き上げてきた企業の信頼、企業ブランドを喪失させてしまつかも知れませんが、否、それ以上に、その企業の強みであったブランド価値は、むしろ負のブランドとして、市場には逆効果となって作用するでしょう。

廃棄物をコストのかかる厄介者として捉えるかぎり、経営としてこのリスクは残るでしょう。産構審・環境部会が唱える「廃棄物・リサイクルガバナンス」の構築が企業にとつては益々重要なテーマとなつてきました。

雑談「江戸のリサイクルシステム」

江戸は当時、世界有数の大都市（人口約百万人）でありながら最も衛生的で美しい都市を実現していたとのこと。そしてそれを支

えていたのが尿尿の流通システム（リサイクルシステム）だったそうです。

当時大都市である江戸庶民の尿尿は、仲買や問屋を通じて近郊農家が買い求めました。大消費地である江戸に向けての農作物の生産性を高めるには、多量の尿尿が必要でした。聞くところによると尿尿にも出処によって値に違いがあつたらしく、熊さん寅さんの長屋の雪隠の尿尿は安く、豪商等のそれは高価？だったそうです。このリサイクルシステムののおかげで、当時の江戸の町や川はもとより、江戸湾も美しくきれいであつたわけですが（だから江戸前寿司が食べられた？）。ちなみに当時の大都市であるロンドンのテムズ川は悪臭に包まれ、パリの街では壺にためておいた尿尿を窓から捨てる習慣もあつたとか。

江戸のシステムが光ります。